NPO 法人ナイスデイ　キーパーソン・インタビュー・プレスより
http://www.npo-work.com

堆肥製造研究者 梅島忠好 氏

2009 年 2 月 19 日

堆肥製造研究者　梅島忠好　氏

Q: ご実家が岡山県の農家とうかがっていますが、幼少の自然農法に親しんでいられたのでしょうか？

A梅島: 田舎でしたから昔からの農法を父がやっていましたね。今ほど物質というか化学的にもいろいろ選べなかったんでしょう。自然が、自然にうまく回るようなサイクルを持っているといいますよね。そんな根本のことを、父をみて身につけてきた感じがすることが、最近になってもあります。

Q: 関わってこられた高知県の四万十流域や新潟県阿賀野市　旧笹神村では、見事な有機肥料農業サイクルが産業として成功していますね。かたや、多額の費用をかけても破綻する同様の事業もあります。何がターニングポイントになるのですか？

A梅島: さまざまに議論されてきていますね。もっと簡単に考えると良いと思いますよ。つまりですね。有機廃棄物はどうしても出てくる。食料品の残渣や食産業廃棄物、し尿、剪定枝などです。また、農業は後継者がいなくなり縮小していても全国いたるところにあります。有機廃棄物を、農家が好む使いやすい堆肥にし、リサイクルとして良い農産物に換える。そして、優良な農産物を良いと感じて購入する消費者。良い堆肥と、消費者で回るのが自然なんです。

Q: 良い堆肥とはどういったものなのですか？

A梅島: おしまいまで発酵している堆肥ということです。発酵が途中だと、水分に触れると発酵が進みますから、臭いが出ますし、ガスも出ます。したがい、苗に使えば失敗しますし、ビニールハウス内ではガスで作物がやられます。

Q: 大きなプラントで作っているものでもだめなのですか？

A梅島: プラントの大小ではないです。自然のサイクルの取り込みかたです。

Q: 構造の問題ですか？

A梅島: 基本は、自然の微生物が廃棄物を堆肥に変えていくんです。土に戻す力ですね。その微生物活動を応援するような仕組みを作ることが出来ているかどうかです。

Q： 知識のない人が、仕組みを選ぶところから失敗しているということですか

A梅島: それも正解だと思います。廃棄物の入り口から農産物の出口・販路まで成功経験のあるかたならわかるんです。農家が好んで使うものを知ることです。全国で心ある人が大掛かりに始めようとしています。市会議員のかたで、若い人に教えている人もみえます。
必要なことを知るには、製造機メーカーの営業マンではなく、経験者に聞けば良いと思いますよ。

Q： 政府の法律整備も進んできるようですが、テレビでもよく話題にふれていますね。今後は、どんな農業インフラが進むとお考えですか？

A梅島: 食の安全が問われていますね。価格や効率だけでは安心や安全は守れないとわかり、信頼できるトレーサビリティの確立が生まれなければなりません。農業のやりかたもふくめたトレーサビリティです。良い農産物を良いと示し、農家を活気付け、農業へのモチベーションを作り、国内農業のための安心構造を作るべきですよ。
本気の人には、今までも無償で相談に応じてきています。農業に本気になってほしいですね。食べるだけのかたもですよ。

Q： 農業と障害者（児）福祉を関連付けることを提唱されてきたそうですが、、、？

A梅島: 土には、癒し効果があります。自然のサイクルにも親しめます。ノーマライゼーションの理念も、効率本位からの自然回帰だとも、思っています。必要なことを極めてゆくと、大きな課題が農業と福祉に見えてきまして、うまく相関しあっていくと喜びも大きい気がするんです。ライフワークとして応援しますよ。

Q 九州から、和歌山・新潟・関東と飛び回っていられるということですが、岐阜で応援可能ですか

A梅島: 羽島市に事務所を持っています。中間点なので便利です。時間が合えば出向きますので、気軽に聞いてください。本気でやってみようという人なら歓迎です。